

私が変わる、世界が変わる

Freedom School

NPO 法人
さっぽろ自由学校

遊



2022年

後期 講座案内

2022年10月~2023年3月

市民がつくる、市民のための学びの場

もくじ

01. タシ ハンボン / もういちど ハングル	3
02. 出会う英語 ☆英語で語ろう☆	
03. 遠くて近くて遠い ニュージーランドとオーストラリア	4
04. ベーシックインカムを再考する —生活保障と脱成長との関連から	5
05. 英国からの報告 —自然と福祉を優先にした「新しい経済」	6
06. 人と動物の共存・共生をめざして	7
07. 先住民の森川海に関する権利 —海外の事例から	8
08. SDGs「私たちの声を、地域に」—当事者からみた地域の課題と政策	9
09. ウクライナ基礎講座	10
10. 20世紀を切り開いたアイヌ列伝 part 2	11
11. 越境する人と文化を通して読み解く東アジア IV	12
12. ウクライナ戦争と日本の安全保障 —憲法9条の平和主義を改めて考える	13
13. このままでいいの？再生可能エネルギーの進め方 part11	14
14. 日本の少子化と子育てを考える —ネウボラから探る子育て支援の課題と未来	15
15. 簡単健康講座—五臓六腑の五臓を学ぶ。東洋医学でお手軽養生！	16
16. 北海道の"核のゴミ"処分問題を考える part 3	17
17. ミュニシパリズム (地域自治主義)	18
18. 本当は憲法より大切な「日米地位協定」	19
19. 老いと向き合う part 8	20
20. 北海道の問題から地球と共生の未来を考える part 2	21
21. アイヌアートデザイン教室	22
22. 読書室よりみちまわりみち	
23. カール・マルクス著『資本論』を読む	23
24. 花さんの読書ゼミ『生きる場の思想と詩の日々』を読む	
25. 動物福祉の名著『アニマル・マシーン』を読む	24
26. IT勉強会 —「分からない」を「分かる」へ	
27. 「遊」版うたごえ喫茶 2022	25
☆ 来て、見て、そして考えて！小樽のアイヌ史跡をめぐるバスツアー	
28. 実態それとも修正？国のアイヌ政策や博物館の中でのアイヌ像の形成	26
☆ アダム・ミツキエーヴィチ『祖霊祭』について	
☆ VRアート入門講座—様々な可能性と楽しさ	27
さっぽろ自由学校「遊」設立趣旨など	28



表紙デザイン いのうえしんぢ

<受講料 (参加費) について>

- ・連続講座の受講料は、記述のないものは通しの料金です。「単発」とあるものは1回毎の参加料金となります。
- ・受講料の種別について
 - 会 員：さっぽろ自由学校「遊」の正・準会員の方。
なお、特別会員の方は**単発参加設定のある連続講座に無料で参加**できます。
 - 一 般：上記以外のすべての方が対象です。
(25歳以下の若者は、特別料金で参加できます)

講座の開催形態とお申込方法

講座の開催形態は、①会場実施のみ、②会場とオンラインの併用、③オンラインのみ、の3種類となっています。以下のロゴマークを参照ください。



講座受講のお申込は、以下のいずれかの方法でお願いいたします。

<方法1> 申込はがきに必要事項ご記入のうえ、投函ください。

<方法2> 右のQRコードより、申込フォームにご記入のうえ、お送りください。

申込フォーム URL : <https://ssl.form-mailer.jp/fms/b5340b4c756060>
(さっぽろ自由学校「遊」のウェブサイトからもアクセスできます)



<方法3> 以下のメールアドレス宛に、「講座申込」のタイトルで希望の講座名（単発の場合、日程も）、受講形態（会場 / オンライン）、お名前、ご住所、メールアドレスを記入のうえ、お送りください。 moshikomi@sapporoyu.org

新型コロナウイルス感染症への対応について

さっぽろ自由学校「遊」では現在、新型コロナウイルス感染症の拡大予防の観点から以下の対策を行っています。

教室で実施するすべての講座につき、定員を設けます（特に記載のない講座については定員15名とさせていただきます）。講座受講をご希望の方は、必ず事前申込をお願いいたします。なお定員になり次第、受付を終了させていただきます。オンライン受講につきましてはこの限りではありません。

対面での参加については、以下の対応についてご了解ください。

- ・マスクの着用を参加の条件とさせていただきます（マスク着用のない場合、入場をお断りします。健康上の理由でマスクが着けられない方は、あらかじめご相談ください）。また、入場のときに手指の消毒をお願いしています。
- ・座席の間隔を空けるとともに、定期的に換気します。

なお、新型コロナウイルスの感染状況の変化によって、上記の対応等については変更の可能性がありますことをあらかじめご了承願います。

01. タシハンボン / もういちど ハングル



人びとの行き来を妨げる感染症、容易には収まらず、街中でハングルをはじめ外国語を耳にすることはめっきり減ってしまった。でも、こんな時こそ、閉じこもらず外に向かって目をこらし耳を澄ましたいものです。そこで、文字は読めるようになったけど…などと、途中でくじけてしまった方たちも「タシハンボン / もういちど ハングル」講座、一緒にしませんか。

日程 10月13日(木) 開講
後期 12回 (~3/23)
第二・第四木曜 19:00 ~ 20:20

会場 オンライン開催 (zoom 使用)

定員 10名 (最少催行5名)

受講料 一般 20,000円 会員 18,500円
25歳以下 15,000円
*体験 (1回のみ) 1,000円

講師 コ・ソングョン
北海道大学大学院 文学院



~講師からのメッセージ~

みなさん、韓国語を聞いたことはあるでしょうね。知っている韓国語はありましたか。お隣の韓国人の人々はどのような考え方をしているのか、またどう暮らしているのか。私と一緒に韓国語を学びながら韓国と韓国人の色々な面を覗いてみませんか。楽しく学んでいきましょう!



02. 出会う英語 ☆英語で語ろう☆



今年度は、オンラインを活用して海外の人と話す機会を設けました。

さっぽろ自由学校「遊」では、開設以来英語の講座を続けてきました。継続は力です。「英語は苦手」と言う人が多いですが、英語を学ぶことによって、世界に一歩扉を開けてみませんか? 基本的な文法や言い回しを学び、その時々最新のニュースやトピックスを読んで、自分の考えを表現しましょう。今年は、参加しやすいように、隔週の開催にしました。

また、教室に来ることが不安でオンラインでの受講をご希望の方も歓迎いたします。

日程 10月24日(月) 開講
後期 10回 (~3/27)
第二・第四月曜 19:00 ~ 20:30

※ただし、祝日 (1/9) はお休み

会場 さっぽろ自由学校「遊」
(愛生館ビル5 F 501A)

*オンライン受講可

定員 10名 (最少催行5名)

受講料 一般 17,000円 会員 16,000円
25歳以下 14,000円
*体験 (1回のみ) 1,000円

講師 アンドレス・パトリシアン
フィリピン出身

皆様へ ~メッセージ~

Hi! I'm Patrick and I've been teaching English in Japan for more than 10 years. In this class, we enjoy learning from each other. Social distance may physically keep us apart but with technology, we can still get connected and learn together from a distance. Join this class and enjoy learning English from people around the world!



Patrick

03. 遠くて近くて遠い ニュージーランドとオーストラリア —マイノリティにやさしい社会とその政策



「羊の国（近年は牛の方が多し）」として知られ、日本人に観光や語学留学で親しまれているニュージーランド。そしてコアラなど珍しい動物が有名だが、最近では日米豪印クアッドの一角を占める大国オーストラリア。日本と同じ環太平洋に在る2つの社会は、マオリやアボリジニ、子どもや障害者などマイノリティに関する政策や制度で先進性に富んでいる。この近くて遠い社会に焦点をあて、受講者と共にその豊かさや問題を学んでいく。

日程 10月4日（火）開講 全5回 月1回第一火曜 19:00～21:00

会場 オンライン開催（zoom 使用）

参加費 通し 一般4,000円 会員3,500円 25歳以下2,000円
（単発 一般・会員1,000円/回 25歳以下500円/回）



10月4日（火）第1回

ニュージーランドって複雑な国

●名波 彰子（ななみ あきこ）

広島修道大学国際コミュニティ学部教授

初回では、ニュージーランド建国の歴史をなぞる中で、先住民マオリの歴史、ヨーロッパの植民、先住民との関係におけるワイタング条約の特徴、マオリの復権運動とニュージーランドの多様性について注目する。

11月1日（火）第2回

障害者の生活から見えてくる ニュージーランドの福祉と政治

●安積 宇宙（あさか うみ）

Donald Beasley Institute

ニュージーランドは、国連の障害者権利条約に初めから加盟し障害者の権利という面でも、先進的な政策を進めてきた。しかし近年は医療や住宅問題が生じ、特に、障害者たちがそれらの影響を真っ先に受けている障害者のリアルを語る。

12月6日（火）第3回

アボリジニの歴史と市民権運動

●高嶺 司（たかみね つかさ）

名桜大学国際文化研究科教授

この回では、オーストラリア先住民アボリジニの歴史と市民権運動について着目する。特に、オーストラリア政府によるアボリジニの保護及び同化政策、アボリジニによる市民権運動と土地権要求運動、ロスト・ジェネレーション問題などについて考える。

2月7日（火）第4回

「幸せの国」ニュージーランドの 子どもたち

●土井 冬樹（どい ふゆき）

神戸大学国際文化学研究所国際文化学研究推進インスティテュート協力研究員

「幸せの国」ニュージーランドの子育て支援も制度は充実しているが、実は子どもの貧困の悪化、家庭内暴力など、根深い問題が存在する。この回ではそのようなニュージーランドの子ども政策に着目する。

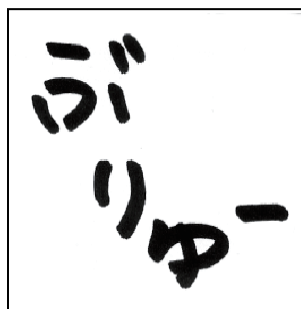
3月7日（火）第5回

マオリの歌と踊り

●土井 冬樹（どい ふゆき）

神戸大学国際文化学研究所国際文化学研究推進インスティテュート協力研究員

この回は、ニュージーランドのオールブラックスが踊るハカの、「ハカ・カ・マテ」の歌詞を紐解きマオリにとっての歌と踊りの意味を示すとともに、先住民の権利拡大に触れながら、現代において文化復興のために歌と踊りが取り組まれていることを紹介する。



04. ベーシックインカムを再考する

—生活保障と脱成長との関係から



最近、日本でも再びベーシックインカムが注目されている。諸外国では、イタリアは2019年4月、スペインでは2020年6月より導入され、フランス、ドイツでも導入が検討されている。国内でもコロナ禍の経済的対策として、2020年に特定給付金として、現金10万円が全国民に給付された。第2回目が、18歳以下と住民税非課税世帯に給付がおこなわれ、第3回目も決定されている。また竹中氏の発言に始まった問題を契機として、社会保障問題との関連で再び議論されている。さらに、最近、資本主義下の地球環境の問題から、脱成長コミュニズムのコモンズとしてのベーシックインカム、ベーシックサービス、ベーシックアセットも議論され始めている。本講座では、ベーシックインカムの基本や代表的な著書を学ぶとともに、我が国での導入案、生活保障(=社会保障+雇用問題)との関連を総合的に検討しながら日本での導入を検討していくことにしたい。

日程 10月7日(金)開講 全5回 月1回第一金曜 19:00～21:00

会場 オンライン開催 (zoom 使用)

参加費 通し 一般4,000円 会員3,500円 25歳以下2,000円

(単発 一般・会員1,000円/回 25歳以下500円/回)

講師 樋口 浩義 (ひぐち ひろよし) <第1回、第2回担当>

東京都葛飾区生まれ。岩手県立盛岡短期大学(現岩手県立大学)専任講師、助教授をへて、水戸短期大学准教授、教授(その後退職)。専門は会計学だが、その中で最近10年間は、とりわけ、公会計学に関心を持ち、政府予算管理の立場からベーシックインカム論を研究中。現在、日本ベーシックインカム学会理事長。

山中 鹿次 (やまなか しかつぐ) <第3回、第4回担当>

日本ベーシックインカム学会関西地区担当理事、NPO法人近畿地域活性ネットワーク代表。愛知学院大学大学院博士課程満期退学(文学修士)。ベーシックインカムについての論文多数。近日中に、樋口浩義との共著「ベーシックインカムと社会保障(仮題)」を発売予定。

橋本 努 (はしもと つとむ) <第5回担当>

北海道大学経済学研究科教授。社会学者。専門は経済社会学、社会哲学。1967年12月東京都生まれ。東京大学大学院総合文化研究科単位取得満期退学、その後東大大学院博士を取得。著書、論文多数執筆。



10月7日(金) 第1回

ベーシックインカムとは何か

ベーシックインカムの基本的な考え方を説明し、わが国でのいくつかの導入パターンについて、財源から実現可能性を考察する。併せて、財源は税金によるべきかMMTによるべきかについても検討する。

11月4日(金) 第2回

コミュニズムのコモンズとしてのベーシックインカムの可能性

齊藤幸平氏、大澤真幸氏らが主張している脱成長コミュニズムとの関連からベーシックインカムの可能性を検討する。



12月2日(金) 第3回

ベーシックインカムと社会保障

ベーシックインカムの導入の際、障害となってくると考えられる社会保障との関連を考える。

2月3日(金) 第4回

ベーシックインカムの導入と労働問題

ベーシックインカム導入がもたらす労働環境の影響について検討する。

3月3日(金) 第5回

ルトガー・ブレグマン『隷属なき道』と ガイ・スタンディング『ベーシックインカムへの道』 について

上記著書を取り上げて内容について議論する。

05. 英国からの報告

—自然と福祉を優先にした「新しい経済」



人間の身の丈に合った実践をする「スモール・イズ・ビューティフル」の思想を体現するシューマツハカレッジは1990年に英国トットネスに創立されました。私はここで「再生経済学コース(Regenerative Economics)」を履修します。本講座ではコースの単元ごとの学びを共有し、日々の暮らしにどのように活かせるのか考えます。カレッジが大切にしているホリスティック(全体性)な考え方やHead(頭)Heart(心)Hands(手/体)を最大限に活かされた学びとはどのようなことなのか。私もワクワクしています。

※諸事情により講師が留学できなかった場合、本講座は中止にします。

日程 10月8日(土)開講 全5回 土曜19:00～21:00

会場 オンライン開催(zoom使用)

参加費 通し 一般4,000円 会員3,500円 25歳以下2,000円
(単発 一般・会員1,000円/回 25歳以下500円/回)

講師 大崎美佳(おおさき・みか)



酪農学園大学環境システム学部生命環境科学卒業。滝川国際交流協会と北海道環境財団にて、約8年間ワークショップ等の場づくりをコーディネート。大好きな自然がこれ以上壊れない未来のために、自然と人の幸福を最優先にした新しい経済を2022年9月よりイギリスの田舎町にて学び中。台湾とハロー！プロジェクトも好き。

10月8日(土)第1回

生態系と経済学 (Ecology and Economy)

経済を学ぶ前に生態学を学ぶ唯一の大学院だと思えます。別物ととらえがちですが、2つの言葉に共通する「エコ」とはギリシャ語で「家」です。2つの接点について深めていきます。

11月26日(土)第2回

成長を超えて (Beyond Growth)

経済の歴史的な主流な流れと風変わりな経済について紹介します。また、低炭素、脱成長、ウェルビーイング、レジリエントをキーワードにした経済のあり方を考えます。

12月17日(土)第3回

シューマツハカレッジでの暮らし

学生が30人以内の小さなカレッジ。提供される食事のうち60%はカレッジの菜園から自給されます。また、日々の暮らしからどのようにコミュニティを形成し、学びを得ているのか紹介します。

1月28日(土)第4回

再生型事業 (Regenerative Enterprise)

サステナブルな未来に向けた新しい経済の世界中の実践例や研究内容を紹介します。

3月18日(土)第5回

枠組みの変容 (Changing The Frame)

新しい経済を人やコミュニティに伝えるための方法を学びます。言語だけではなく言語を使わない伝え方を習得する過程を共有します。



いつだって No Nuke !



北海道のエネルギーの未来を考える
10,000人の会

06. 人と動物との共存・共生をめざして



これまで「人も動物も満たされて生きる～アニマルウェルフェア（動物福祉）をめぐる～」をテーマに、計6期にわたり学んできました。参加者が徐々に増えてきたこともあり、今後は「人と動物との共存・共生」のあり方について、さらに一歩進んだ形で学習します。今期は、動物関係の研究者や獣医師、酪農家の方々が講師となり、普段はなかなか聞けない専門的な視点から、人と動物とのより良い関係を創る道筋を探っていきます。

日程 10月13日（木）開講 全6回 月1回第二木曜 18:45～20:45

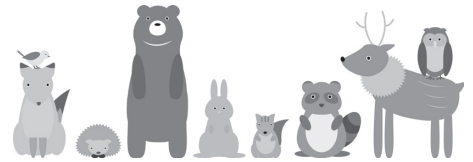
（※11/10は19:00開始）

会場 オンライン開催（zoom使用）

参加費 通し 一般5,000円 会員4,000円 25歳以下2,500円

（単発 一般・会員1,000円/回 25歳以下500円/回）

コーディネーター アニマルウェルフェア講座担当チーム



10月13日（木）第1回

産業動物獣医師としての仕事

●工藤 有沙（くどうありさ）

NOSA I北海道宗谷南部家畜診療所 獣医師

道北の枝幸町で牛の獣医として働いています。牛を扱う獣医師として普段どのような仕事をしているのか、犬猫の獣医師との違いや女性獣医師としての苦労なども交えつつお話しします。

11月10日（木）第2回 ※この回のみ19:00開始

絶滅の危機に瀕するマゲシカ問題

●立澤 史郎（たつざわしろう）

北海道大学大学院文学研究院 助教

馬毛島（鹿児島県西之表市）に棲息するマゲシカは1000年以上にわたり独自の集団を形成して生き残ってきました。しかし、今、基地建設計画で絶滅危機に瀕しています。保全生態学者の研究からこの問題について考えます。

12月8日（木）第3回

絶滅の危機に瀕した猛禽類と共生するために

●齊藤 慶輔（さいとうけいすけ）

猛禽類医学研究所 代表・獣医師

北海道にはオオワシやシマフクロウなどの希少猛禽類が数多く棲息します。彼らが傷付く原因は人間活動が関与しているものがほとんどです。猛禽類とのより良い共生のあり方を考えます。

1月12日（木）第4回

ヒグマ研究第一人者よりヒグマの実像を学ぶ

●門崎 允昭（かどさきまさあき）

北海道野生動物研究所 所長

ヒグマは未だに危険のレッテルを貼られ毎年命を奪われています。ヒグマ研究第一人者の54年にわたる研究から、確かな知識と情報を読み解くリテラシーを習得します。

2月9日（木）第5回

共生のアニマルウェルフェア—乳牛をめぐる—

●石田 幸也（いしだゆきや）

もっと北の国から楽農交流会 代表

肥料なしで75haの草地を管理し、成牛50頭を飼養する家族経営の酪農家です。牛は放牧し、自給飼料を与え、濃厚飼料は利用しません。「牛を満たす飼育方法は、経営も満たしてくれること」を実例に基づいて紹介します。

3月9日（木）第6回

「脱ケージ」を軸に鶏と人間の関係を考える

●大木 茂（おおきしげる）

麻布大学獣医学部教授（農業経済学）・AWFCJ 監事

採卵鶏の「脱ケージ飼育」が世界の潮流になる中、これからの卵や鶏肉の消費のあり方はどうなるのか。アニマルウェルフェアの原点に戻って考えます。

07. 先住民族の森川海に関する権利

— 海外の事例から



さっぽろ自由学校「遊」では、「カムイチュブ・プロジェクト研究会」(2020～21)、「アイヌ森林問題研究会」(2021)という2つのオンライン研究会を発展させ、2022年5月より「森・川・海のアイヌ先住権研究プロジェクト」に参画しています。この講座では、このプロジェクトと関連させる形で、国際社会や海外諸地域における先住民族の森・川・海に関する権利回復の動きや制度的動向について学びあいたいと思います。

日程 10月24日(月)開講 全6回 月1回月曜 19:00～21:00

会場 オンライン開催 (zoom 使用)

参加費 通し 一般5,000円 会員4,000円 25歳以下2,500円
(単発 一般・会員1,000円/回 25歳以下500円/回)



10月24日(月) 第1回

先住民族の国連機関と琉球民族の参加2022

- 上村 英明 (うえむら ひであき)
市民外交センター共同代表、恵泉女学園大学名誉教授
- 永井 文也 (ながい ふみや)
市民外交センター副代表、恵泉女学園大学助教

先住民族に関する国連人権機関の現場の様子について、2022年の会議への参加経験から共有します。

1月16日(月) 第4回

国際人権法における先住民族の土地・資源に対する権利

- 小坂田 裕子 (おさかだ ゆうこ)
中央大学法科大学院教授

「先住民族の権利に関する国連宣言」や自由権規約委員会、米州人権裁判所等の人権条約機関の実行の検討を通じて、国際人権法における先住民族の土地・資源に対する権利の到達点と課題について考えます。

11月21日(月) 第2回

アオテアロア・ニュージーランドの先住民族マオリの漁業権

- 深山 直子 (ふかやま なおこ)
東京都立大学人文社会学部准教授・社会人類学者

1970年代以降、マオリの文化復興と権利回復が進んだ。特に1980年代半ばからは、海の先住権を求める運動が高揚した。現在マオリは、商業的漁業権に基づきグローバルな漁業の担い手である一方で、慣習的漁撈権に基づきローカルな水産資源を享受する存在でもある。

2月20日(月) 第5回

南米アマゾンの先住民族と土地・資源の権利

- 鈴木 真代 (すずき まよ)
SGS ジャパン(株)ESG アドバイザリー部アドバイザー
/ Social Connection for Human Rights 共同創設者

南米のアマゾン流域に住む先住民コミュニティの森林保護活動と違法伐採に関する実情と対策に関して、コロンビア、ブラジル、ペルーの事例をご紹介します。特に、若年層の先住民リーダーたちの声をお伝えします。

12月19日(月) 第3回

マレーシアにおける森林開発と先住民族の権利

- 内藤 大輔 (ないとう だいすけ)
京都大学農学研究科助教・専門：東南アジア地域研究、ポリティカル・エコロジー

マレーシアにおける森林開発の歴史と先住民族への影響について、植民地期にある程度設定されていた先住民族の慣習的な権利が、森林開発とともに形骸化されていった過程を振り返りながら、今日導入されている森林認証制度の取り組みや先住民族慣習権回復の動きについて紹介します。

3月20日(月) 第6回

台湾原住民(族)の森林資源権利 — 法制度変遷を中心に

- 李 明芝 (Ming-Chih Lee)
台湾国立政治大学地政学部助教授

台湾では、2005年に原住民族基本法が制定され、台湾原住民(日本語で先住民)の森林産物採取及び原住民族の自然資源権利が明文化された。2019年に原住民の森林産物採取に関する法令が公布されたが、この法令は台湾原住民の自然資源権利を実現しているのか考察する余地がある。台湾原住民(族)の森林資源権利に関する法制度の変遷について紹介する。

08.SDGs 「私たちの声を、地域に」

—当事者からみた地域の課題と政策



国連は、持続可能で公正な社会づくりに向けたアジェンダを採択し、2030年までに達成させたい目標をSDGs(持続可能な開発目標)として世界に投げかけました。「誰ひとり取り残さない」という言葉に象徴されているように、このアジェンダでは「脆弱な(立場に置かれた)人々」への言及がしつこいほどされています。ひるがえって、私たちが暮らす地域を見つめたとき、気づかずに取り残してしまっている人や課題はないでしょうか? また、それらの課題を克服していくためにはどのような政策が必要でしょうか? 当事者からの声に耳を傾けながら、何をどのように変えていけばよいのかを一緒に考えていきましょう。



日程 10月25日(火) 開講 全5回 月1回火曜 19:00~21:00

会場 オンライン開催(zoom使用)

参加費 通し 一般4,000円 会員3,500円 25歳以下2,000円
(単発 一般・会員1,000円/回 25歳以下500円/回)

共催 北海道メジャーグループプロジェクト

10月25日(火) 第1回

女性の立場から



●久世 ののか(くぜ ののか) 女性グループ

札幌市男女共同参画センター職員。2018年より同センターで勤務し、主に若年女性支援や機関紙「りぶるさっぽろ」をはじめとする事業の企画・運営を行う。2020年度よりメジャーグループプロジェクトで女性グループを担当。

11月22日(火) 第2回

若者の立場から



●長谷川 友子(はせがわ ゆうこ) ユースグループ

任意団体 snug 代表。北海道や札幌市内外において、行政や企業、大学などと連携しながら若者世代を対象としたワークショップなど対話の場づくりやファシリテーション、若者のエンパワメント及びリーダーシップ育成を行っている。

12月27日(火) 第3回

農民の立場から



●荒谷 明子(あらたに あきこ) 農民グループ

1995年にメノナイト キリスト教会の有志とともにメノビレッジ 長沼を立ち上げ、有機農業に取り組む。羊40頭牛1頭とともに不耕起無肥料栽培にて有畜畑作農業を実践。40数種類の野菜はCSA(Community Shared Agriculture=地域で分かち合う農業)で食べる人たちと分かち合っている。

1月31日(火) 第4回

障害者の立場から



●山崎 恵(やまざき めぐみ) ほか 障害グループ

DPI北海道ブロック会議事務局次長。2020年より、SDGs北海道メジャーグループプロジェクトに参加し、障害グループを担当。DPI北海道ブロック会議では、SDGsの「誰ひとり取り残さない」社会の実現に向けて、活動している。

2月28日(火) 第5回

アイヌ民族の立場から



●栃木 和美(とちぎ かずみ) 先住民族グループ

千歳在住。千歳アイヌ文化伝承保存会所属。35歳からアイヌの文化である舞踊や料理、刺繍等を始める。子供の頃から当たり前だと思って食べていたオハウや山菜が、アイヌの食材、文化というのを知ったのは大人になってから。今では、アイヌ文化を伝承するべく、子供たちと共に舞踊を行う。

雑貨(もの)・ひと・食のひろば

みんたる

MINTARU

フェアトレード雑貨&レストラン

札幌市北区北14条西3
Tel&Fax.011-756-3600
http://www.mintaru.com

営業時間/11:45-22:00
定休日/日・月・祝日

09. ウクライナ基礎講座



どんな理由があれ、ある国が他の国を武力侵攻して許されるはずがない。まして、侵攻先の市民が日常を奪われ、殺されるなんて言語道断だ。そして兵士に仕立てられた双方の市民が殺し合うなんて、なんとおぞましい関係だろう。この非道なロシア軍のウクライナ侵攻の背景にあるものなんだろう。どうすればこれ以上の事態の侵攻を止められるのだろう。それにしてもウクライナを含むあの地域について何も知らない。当事者の声を聞きながら、学んでみよう。



日程 10月11日(火)開講 全6回 月1回第二火曜 18:45～20:45

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A) *オンライン受講可

参加費 通し(会場・オンライン共通) 一般6,000円 会員4,800円 25歳以下2,400円
(単発 一般1,500円/回 会員・オンライン1,000円/回 25歳以下500円/回)

講師 クラコワ・ベロニカ (27) ウクライナ南部のザポリージャ市生まれ。ザポリージャ大学(専攻はウクライナ語や文学)を2017年に卒業。2020年、来日。札幌在住。

ゴヴォロフスキー・セルヒー (48) ウクライナ南西部のカミヤネツ・ポディルスキー市生まれ。キエウ国立言語大学東洋学部・日本語学科を1996年卒業。イギリスの国際暁星大学に留学後、会計事務所へ。2001年来日し、熊本を経て03年から千歳市の会社に勤務。恵庭市在住。

ツァゲールニック・タッチャナ (35) ベラルーシ出身、2006年来日、現在、北海道大学教育学院大学院生、在日本ベラルーシ人の会のメンバー。札幌在住。

10月11日(火) 第1回

私の生まれたところ

一両親、きょうだい、友だち、学校 etc

●講師3人

ベロニカさんら講師3人がそれぞれの生まれ故郷について、暮らしの思い出をまじえて紹介します。

11月8日(火) 第2回

ウクライナの言語、民族、宗教、文化、教育など

●クラコワ・ベロニカ

ウクライナを軸に、言語、宗教、文化など当事者3か国の違いを明かにしていく。

12月13日(火) 第3回

ウクライナの歴史①

●ゴヴォロフスキー・セルヒー

6世紀後半には誕生した「キエフ・ルーシー公国」から1917年のロシア革命まで。ウクライナ、ロシア、ベラルーシ3か国の成り立ちを中心に、モンゴルの征西、ポーランドの南下など時代ごとに支配者が変わる、まさに国家の興亡を歴史をたどります。

1月10日(火) 第4回

ウクライナの歴史②

●ゴヴォロフスキー・セルヒー

1917年の2度のロシア革命からソ連崩壊を経て現在に至るまで。特に2000年代、2010年代の政権交代とオレンジ、マイダン革命、ロシアのクリミア占領、ウクライナ東部への介入など、今回の戦争に至る歴史的背景に迫ります。

2月14日(火) 第5回

ベラルーシから見たウクライナの戦い

●ツァゲールニック・タッチャナ

ルカシェンコ独裁下のベラルーシは、ロシアになぜ非協力を貫けないのか？ベラルーシの民主化は行き詰ったままなのか？ロシア化(同化)政策の現状は？ロシアがウクライナ全域を占領した時の姿を、ベラルーシは先取りしているのかもしれない。

3月14日(火) 第6回

討議「ウクライナ戦争と私たち」

●講師3人+上田 文雄(うへだ ふみお)

上田文雄札幌前市長は今年4月、在札幌ロシア領事と面談し、ロシアのウクライナ侵攻は国連憲章違反であると、強く訴えた。上田さんからの報告を軸に、講師たちと戦争と自国防衛の考え方をパネル討論、参加者とともに考える。

10. 20世紀を切り開いたアイヌ列伝

part 2



21世紀が幕を開けて早くも22年が過ぎる。死と戦争の報道が日常化し、昭和世代は「レトロ」呼ばわりされ、紙の本も新聞も読まないデジタルネイティブ世代との溝は深まるばかり…。20世紀とは何だったのか？先駆者たちの「遺産」を、新しい視点から読み直し、よみがえらせて次の世代へ大切に受け継ぎたい！

日程 10月12日(水)開講 全6回 月1回水曜 18:45～20:45

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A) *オンライン受講も可

参加費 通し(会場・オンライン共通) 一般6,000円 会員4,800円 25歳以下2,400円
(単発 一般1,500円/回 会員・オンライン1,000円/回 25歳以下500円/回)

コーディネーター 長岡 伸一(ながおか しんいち) 元NHK札幌放送局 番組制作ディレクター

2021年、遊の講座「明治のサッポロのアイヌ史を掘る」を企画。2022年、講座「北海道の”核のゴミ”処分問題を考える」part2で7月の講師をつとめた。”核のゴミ”part3で2023年1月の講師も予定。

10月12日(水) 第1回

先駆者金成太郎の存在

●富樫 利一(とがし としかず)
作家、アイヌ文化アドバイザー

金成太郎(かんなり たろう 1866～1897)は何者なのか？
明治維新、民族自立の道を求め行動するも、挫折、客死。
その30年の人生を語る。



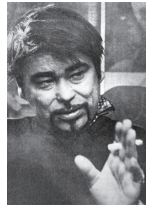
ホロボツ愛隣学校(登別市郷土資料館蔵)

1月18日(水) 第4回

砂澤ビッキ

●マーク・ウィンチェスター
国立アイヌ民族博物館アソシエイトフェロー

「自然」「原始的」「野生的」「土俗的」…。砂澤ビッキ(1931-1989)にこれまで投げかけられてきた偏見に満ちた評価とは違うものが、彼の没後30年を機に、やっと世に現れ始めました。現在、ポストヒューマンやマルクススピーーズと呼ばれるような人類学の視線が<アイヌ>に向けられはじめました。新しいビッキ研究を概観しながら、ここで彼の作品に見てとれる<人間性>をもう一度見つめ直したい。



11月9日(水) 第2回

知里幸恵と出逢って 演じて感じたこと

●舞香(まいか) *オンライン登壇
役者・演出家・脚本家

今年『アイヌ神謡集』の知里幸恵(1903～1922)没後100年。来年は生誕120年・アイヌ神謡集出版100年です。10年以上彼女の生涯を演じ続ける舞香と一緒に幸恵さんの言葉や想いに触れてみませんか？



2月8日(水) 第5回

民族復権に懸けた 結城庄司物語

●竹内 渉(たけうち わたる)
元北海道アイヌ協会事務局長

アイヌ文化を武器に、という戦術を生み出し苦闘し、45歳で急逝した結城庄司氏(1938～1983)の生涯を彼の著書、関係書籍、写真・映像・音声資料などを使い物語ってみたい。



12月14日(水) 第3回

山本多助エカシが 切り拓いたこと

●竹内 渉(たけうち わたる)
元北海道アイヌ協会事務局長

エカシ(1904～1993)は、アイヌ文化復興・継承活動などを通して数多くのことを切り拓かれた。関係書籍、写真・映像・音声資料などを使いその意義を考えてみたい。



3月8日(水) 第6回

フリートークセッション

講座「20世紀を切り開いたアイヌ列伝」では、多様な背景を持つ講師を迎え、それぞれのアイヌについてユニークな視点から講義が行われた。このたびのフリートークセッションは、対談形式でそれぞれの思いやコメントを交わしながら、受講者からの質問などにも応える会を設けたい。

11. 越境する人と文化を通して読み解く東アジアⅣ

—地域から東アジアの多文化共生を考える



本講座では、前期に続いて越境する人と文化を通して東アジアを読み解いていきます。後期もローカル地域に焦点を当て東アジアの多文化共生について考えます。具体的には、比較の視点を取り入れて、ローカルとグローバルを結ぶ人と文化（食、音楽、スポーツなど）に着目し、日中韓（半島）のそれぞれ二つの地域を取り上げます。講座では文献資料と映像資料を用いるほか、フィールドワークを通して得た研究結果から現場の声を適宜紹介します。

日程 10月18日（火）開講 全6回 月1回第三火曜 18:45～20:45

会場 さっぽろ自由学校「遊」（愛生館ビル5F 501A） ＊オンライン受講可

参加費 通し（会場・オンライン共通） 一般 6,000円 会員 4,800円 25歳以下 2,400円
（単発 一般 1,500円/回 会員・オンライン 1,000円/回 25歳以下 500円/回）

講師 朴仁哲（ぼくじんてつ）

中国黒竜江省生まれ、1997年来日。1999年から通訳・翻訳者として日中韓に関わって、草の根の交流を行っています。北海道大学教育学博士。多文化共生・国際交流研究事務所所長、特定非営利活動法人社会理論・動態研究所研究員。専門は外国語教育、東アジア地域研究、人の移動と移民研究、多文化共生・国際交流研究など多数。HP：<https://sapporobc.wixsite.com/officeyou>



10月18日（火）第1回

韓半島の忠清道（チュンチョンド）を事例として

忠清道出身の著名人には韓国近代詩の原点であり、その頂点に達した詩人の鄭芝溶及び日韓の文化交流に大きく貢献している李御寧、そして韓流ドラマ「冬のソナタ」の主題歌・挿入歌を作詞したシンガーソングライターの Ryu（류）などがいます。また、忠清道は戦前、中国東北地域へ多くの移住者を送り出した地域でもあります。第1回では、「文学」「音楽」「移民」などを手掛かりに、東アジアを読み解いて行きます。

11月15日（火）第2回

韓半島の咸鏡道（ハムギョンド）を事例として

咸鏡道出身の著名人には力道山がいます。また東アジアで広く知られつつある詩人尹東柱一家の原籍地も咸鏡道です。そして戦前、咸鏡道には多くの日本人が暮らしていた地域であり、中国東北地域へ多くの移住者を送り出した地域でもあります。第2回では、主に「東アジアの記憶の場」を手掛かりに、東アジアを読み解いて行きます。

12月20日（火）第3回

中国の吉林省（キツリンショウ）を事例として

吉林省には漢民族のほか、戦前、韓半島から移住した朝鮮人移民の子孫も暮らしています。また、長春（「満洲国」時代の新京）には「満洲国」時代の皇室や戦前、日本人が建てた「内閣」などの各部署の官庁の建物が残っています。第3回では、「移民」「戦争の記憶」などを手掛かりに、東アジアを読み解いて行きます。

1月17日（火）第4回

中国の福建省（フッケンショウ）を事例として

福建省からは中国国内国外へ多くの人々が移動して行きました。例えば、日本に渡った囲碁棋士の呉清源及び長崎ちゃんぽん考案者の陳平順などが福建省の出身者です。第4回では、主に「移民」と「華僑」を手掛かりに、東アジアを読み解いて行きます。

2月21日（火）第5回

神奈川県を事例として

神奈川県出身の著名人には、歌手の美空ひばりや坂本九、そして桑田佳祐など、俳優の原節子や山口百恵など枚挙に暇がありません。また、横浜市にはチャイナタウンがあり、かつて多くの中華圏の人たちが移住してきて、その子孫たちが今も居住しています。第5回では、「音楽」「映像」「移民」などを手掛かりに、東アジアを読み解いて行きます。

3月21日（火）第6回

福岡県を事例として

福岡県出身の著名人には、映画俳優の高倉健、作家の五木寛之、歌手の浜崎あゆみなどがいます。また福岡県は、日本における東アジアとの文化交流の拠点の一つです。第6回では、「映像」「文学」「音楽」などを手掛かりに、東アジアを読み解いて行きます。

12. ウクライナ戦争と日本の安全保障

— 憲法9条の平和主義を改めて考える



2月に始まったロシアのウクライナ侵攻。泥沼化する戦争は各国に衝撃を与え、安全保障のあり方を見直す動きが拡大。日本でも、7月に実施された参院選で自民維新など改憲勢力が伸長し、憲法9条の平和主義が見直されようとしています。9条から今、私たちが学ぶべきものは何でしょうか。改憲勢力に一票を投じた有権者の思いも考慮し受け止めつつ、日本が目指すべき平和のあり方を考えます。

日程 10月19日(水) 開講 全3回 月1回第三水曜 18:45～20:45
会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A) *オンライン受講可
参加費 通し(会場・オンライン共通) 一般3,000円 会員2,400円 25歳以下1,200円
 (単発 一般1,500円/回 会員・オンライン1,000円/回 25歳以下500円/回)
コーディネーター 飯島 秀明(いいじま ひであき) 沖縄の基地を考える会・札幌

10月19日(水) 第1回

従来の戦争論議をゼロベースで洗い直す

●**本田 宏**(ほんだ ひろし)

北海学園大学法学部教授(政治過程論、社会運動論、比較政治学)

ロシアがウクライナに侵攻すると、非武装抵抗のみを是とする護憲勢力の一部からは、事態を「代理戦争」ととらえ、ウクライナに降伏や領土割譲を求めるような主張も見られました。この回では、ドイツなどでの論議にも触れながら、軍隊、自衛権、集団安全保障、個々の文脈ごとに異なってもしかるべき戦争のとらえ方などを皆さんと議論し、護憲平和論をアップデートしていく手がかりを探ります。

11月16日(水) 第2回

自民党の改憲案を考える

●**神保 大地**(じんぼ だいち)

弁護士、札幌弁護士会所属 明日の自由を守る若手弁護士会の会共同代表

自衛隊の明記や緊急事態対応を柱とする自民党の改憲案はどのような事態を想定し、日本をどこに向かわせようとしているのでしょうか。日米同盟の強化は本当に日本の平和に資するのでしょうか。9条の有効性を改めて問い直し、日本の向かうべき進路を考えます。

12月21日(水) 第3回

台湾有事と南西諸島

●**許 仁碩**(シュ ジェンシュオ)

北大国際広報メディア・観光学院助教

●**渡名喜 隆子**(とくなち たかこ)

沖縄の米軍基地を考える会・札幌

ウクライナ戦争後、米国のバイデン大統領が台湾有事の際の軍事的関与を明言し、ペロシ下院議長が訪台。対抗する中国が台湾を包囲するように軍事演習を実施するなど、にわかに中台の緊張が高まっています。日本もまた中国への対抗として南西諸島への自衛隊配備を急いでいます。台湾・沖縄という緊張の最前線から東アジアの安定に向けた日本の役割を考えます。



オーガニック・自然食品専門店

らる火 

おべんとうとおそうざい

らるごはん 

札幌市中央区大通西23丁目
 Tel 614-2406 Fax 614-3836
<http://rarubatake.com>
 10時～19時(日～17時・祝～18時)

Simple Life, High Thinking



小4から高3まで

 **スコール ユウ**

〒007-0866 札幌市東区伏古6条4丁目4-21
 TEL. 785-0228

生活クラブは、
 ちょっと変わった
 生協です♪
 モットーは
 「おいしくてカラダによくて
 自然を壊さない」です

生活クラブ北海道 **検索**

13. このままでいいの？

再生可能エネルギーの進め方 part 11



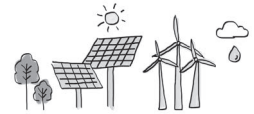
国策である再エネ導入の掛け声のもと、民間事業者が全国で活発に事業展開していますが、その実態は立地地域の自然環境・生活環境の破壊に他なりません。今回は道内道外で再エネ問題と被害を発信している方々と、近年話題になっている脱炭素技術を支えるレアメタル、ニッケルについて、鉱山の開発現場をフィリピン、インドネシアから現地報告していただき、日本のみならず、世界が推し進めようとしている脱炭素のやり方がこのままで良いのかを考えます。

日程 10月20日(木) 開講 全6回 月1回第三木曜 18:45～20:45

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A) *オンライン受講可

参加費 通し(会場・オンライン共通) 一般6,000円 会員4,800円 25歳以下2,400円
(単発 一般1,500円/回 会員・オンライン1,000円/回 25歳以下500円/回)

コーディネーター 糟谷 奈保子(かすや なおこ) 石狩湾岸の風力発電を考える石狩市民の会



10月20日(木) 第1回

長崎県佐世保市宇久島の再エネ計画について

●佐々木 浄榮(ささき じょうえい)

全国再エネ問題連絡会共同代表、特定非営利活動法人宇久島の生活を守る会会長

10年ほど前から計画されている、480MWのメガソーラー開発計画、及び100MWの陸上風力発電計画についてこれまでの経緯や見えてきた問題点についてお話しします。

11月17日(木) 第2回

宮城県丸森町メガソーラー開発事業の実態と住民運動について

●義高 光(よし たか ひかる)

耕野の自然と未来を考える会共同代表

2019年の台風19号で死者、行方不明者11名という全国でも最悪の被害を受けた宮城県丸森町。災害に脆弱な地域の森林の115haを対象とするメガソーラー開発。事業の在り方、法、条例による規制の現状、それに対抗する住民運動を報告。

12月15日(木) 第3回

北海道伊達市山間部での風車建設問題生の声を聞く

●宇井 尚(うい たかし)

札幌出身 2000年旧大滝村に移住、田舎の便利屋ウイ・コーポレーション代表、大滝そよ風の会 事務局

●佐々木 邦夫(ささき くにお)

風力発電を地域から考える全国協議会共同代表

2016年にアメリカ外資系の事業者による約50基の風車建設計画がもちあがり、2021年からはオリックスが高さ150m、45基の風車建設計画を進めている。これまでと、これからの活動をお伝えします。

1月19日(木) 第4回

「市民的成熟」を目指して

—小樽余市の巨大風力発電計画と一市民の2年9か月

●平山 秀朋(ひらやま ひでとも)

小樽市民

2020年4月24日。北海道新聞に掲載された小さな公告からすべてが始まりました。東京の大手商社、双日による「(仮称)北海道小樽余市風力発電所」建設計画が発表されて以来、何を考え、どんな行動をとってきたか。「ただの一市民」の視点からお話しします。

2月16日(木) 第5回

ニッケル鉱山開発と私たちの暮らしのつながり

●波多江 秀枝(はたえ ほづえ)

国際環境 NGO FoE Japan 開発と環境チームスタッフ

スマホやパソコン、自動車の部品など、生活に入り込んでいる「ニッケル」。いま気候変動対策が進められる中、電気自動車(EV)や再生可能エネルギーに必要な電池の材料として、益々私たちの生活に欠かせないものとなっているが、そのニッケル鉱山の開発現場では、長年土地の収奪や環境破壊など、深刻な問題が繰り返し起きてきた。フィリピンやインドネシアの現場の状況を報告します。

3月16日(木) 第6回

石狩湾における洋上風力発電について

●安田 秀子(やすだ ひでこ)

石狩湾岸の風力発電を考える石狩市民の会代表

すでに基礎杭打ち工事が終了した石狩湾新港洋上風力発電事業の進捗状況と、石狩市が熱望する石狩市沿岸65kmに及ぶ石狩湾一般海域での洋上風力発電事業は誰のため、何のための事業なのかを探ります。漁業資源を含め海の生き物の種の存続に不可欠な石狩湾は、守られるべきものです。

14. 日本の少子化と子育てを考える

—ネウボラから探る子育て支援の課題と未来



日本では、少子化、子どもの貧困、子ども虐待などが社会問題となっている。各地域で人口減少や人口不足が表出し、若者・子育て層では生活不安が常態化している。子ども・若者が幸福に暮らせる社会には何が必要か。北欧フィンランド発の妊娠期からの切れ目のない支援「ネウボラ」をヒントに、日本と北海道における子育て支援の課題と未来を探る連続講座です。

日程 10月26日(水)開講 全5回 月1回水曜 18:45～20:45

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A) *オンライン受講可

参加費 通し(会場・オンライン共通) 一般5,000円 会員4,000円 25歳以下2,000円
(単発 一般1,500円/回 会員1,000円/回 25歳以下500円/回)

共催 一般社団法人ファミリー支援 INV 協会

10月26日(水) 第1回

近年における子育て世代の雇用労働の課題

●佐賀 正悟(さが しょうご)
さっぽろ青年ユニオン

就職氷河期など2000年代以降の若者の雇用形態や所得の変化を概観しつつ、現在職場で起きている問題や労働相談の事例を通して、子育てしながら働くことの課題を知ります。

11月30日(水) 第2回

北海道における少子化課題

●丸山 洋平(まるやま ようへい)
札幌市立大学デザイン学部准教授

人口減少や少子高齢化は家族の形を変えるとともに、地域差を伴って進行しています。戦後日本の家族形成行動の変化を踏まえつつ、北海道の人口の特徴、今後の少子化対策の方向性を論じます。

12月28日(水) 第3回

子育て支援事業の変遷とコロナ禍後の子育て

●工藤 遥(くどう はるか)
拓殖大学北海道短期大学 助教

過去30年にわたる日本の子育て支援事業・制度の変遷と、民間団体による地域子育て支援活動の動きを概説します。その上で、コロナ禍の子育て家庭調査データも踏まえながら、子育て支援の現状と課題を考えます。



2月22日(水) 第4回

妊娠期からの切れ目のない支援ネウボラとは

●五嶋 耀祥(ごしま ひな)
一般社団法人ファミリー支援 INV 協会 代表理事

フィンランドの子育て福祉ネウボラとは何か、また、日本版ネウボラとして施行された子育て世代包括支援センター、各全国の行政主導によるネウボラを紹介します。こども家庭庁創設への背景と理念共有を図ります。

3月22日(水) 第5回

子育て支援の先駆的取り組みと今後の課題

●五嶋 耀祥(ごしま ひな)
一般社団法人ファミリー支援 INV 協会 代表理事

全国でも先駆的とされるNPO北海道ネウボラの子育て支援の立ち上げからこれまでと、コロナ禍の活動を通して現在の活動について、今後の課題から、ネウボラの実践を通して未来に期待する子育てを考えます。

内科・神経外科

札幌中央
ファミリークリニック

外来一般診療

月火・木金 9:00～11:30

外来は予約してください

札幌市中央区南1条西11丁目
ワンス南一条ビル6F
TEL.272-3455

15. 簡単健康講座

—五臓六腑の五臓（肝・心・脾・肺・腎）を学ぶ。東洋医学でお手軽養生！



触れる機会の少ない東洋医学の世界。実は、明治期に入るまで日本人にとって馴染みの深いものでした。古き良き伝統医学をこの機会に学び、日々の健康管理にお役立てください。全講座を受講することで東洋医学の基礎を身に付けることができます。また、基礎知識がつくことにより、関係の深い薬膳学や漢方学などへ知見を広げていくことができます。

日程 10月27日(木)開講 全6回 月1回第四木曜 18:30～20:00

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A) *オンライン受講も可

受講料 一般6,000円 会員4,800円(単発 一般1,500円/回 会員・オンライン1,000円/回)

講師 堀口 恭弘(ほりぐち ともひろ) 整骨 鍼灸 漢方 薬膳 福院長

栃木県出身。大樹町にて地域医療を学ぶなか、西洋医学の欠点に気づき東洋医学を学ぶため来札、進学する。中医師のもと中医学を学び、西洋・東洋医学を折衷した統合医療の実践や各種講座を開催。専門学校にて生薬・漢方学講師を務める。



10月27日(木) 第1回

東洋医学の基礎を学ぶ。 気血水と陰陽五行論。

東洋医学を学ぶ上で大切な気・血・水や陰陽五行論について概論をお話します。

11月24日(木) 第2回

將軍の官「肝」とは

皆さんが知る「肝臓」と東洋医学の「肝」は異なります。この「肝」の生理や生理特性、からだの関連領域について。肝と表と裏の関係にある「腑」についてのお話もします。

12月22日(木) 第3回

君主の官「心」とは

皆さんが知る「心臓」と東洋医学の「心」は異なります。この「心」の生理や生理特性、からだの関連領域について。心と表と裏の関係にある「腑」についてのお話もします。

1月26日(木) 第4回

倉廩の官「脾」とは

皆さんが知る「脾臓」と東洋医学の「脾」は異なります。この「脾」の生理や生理特性、からだの関連領域について。脾と表と裏の関係にある「腑」についてのお話もします。

2月23日(木) 第5回

相傳の官「肺」とは

皆さんが知る「肺」と東洋医学の「肺」は異なります。この「肺」の生理や生理特性、からだの関連領域について。肺と表と裏の関係にある「腑」についてのお話もします。

3月23日(木) 第5回

作強の官「腎」とは

皆さんが知る「腎臓」と東洋医学の「腎」は異なります。この「腎」の生理や生理特性、からだの関連領域について。腎と表と裏の関係にある「腑」についてのお話もします。

みどり内科

クリニック 内科・消化器科

注射でラクな内視鏡検査できます。

白石区本郷通13丁目南4-27 ムトウビル2階 ☎866-4563 P有

自然食ホロ

札幌市東区中沼西5条2丁目3-16
TEL: 887-6224

いつも喜んで、感謝して。

<http://holo.sunnyday.jp/>

東ティモール マウベシ珈琲

オーガニックカフェやショップで販売中
フェアトレードの美味しいコーヒー!!

NPO 法人 ほっかいどうピーストレード
TEL 070-5619-3222
hokkaidopeacetrade@gmail.com

16. 北海道の“核のゴミ”処分問題を考える part 3



後志管内の寿都町と神恵内村で“核のゴミ”最終処分場の選定に向けた「文献調査」が進み、寿都では来年にも町条例に基づく住民投票が行なわれる見込みです。道北の幌延町では、深度 500 m 調査坑道を掘削する計画や、処分事業者の NUMO が参画する国際共同プロジェクトが進行しています。こうした“核のゴミ”処分問題の「過去・現在・未来」について、地元住民や研究者らの話を通して深掘りしていくのが、この講座の目的です。



日程 10月28日(金)開講 全6回 月1回第四金曜 18:45～20:45
会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A) *オンライン受講も可
参加費 通し(会場・オンライン共通) 一般 6,000円 会員 4,800円 25歳以下 2,400円
(単発 一般 1,500円/回 会員・オンライン 1,000円/回 25歳以下 500円/回)
コーディネーター 滝川 康治(たきかわ こうじ) ルポライター

10月28日(金) 第1回

文献調査が進む寿都町の住民は何を思うのか？

●三木 信香(みきのぶか)

「子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会」共同代表

2020年秋、寿都町の片岡春雄町長が「文献調査」の応募に手を挙げ、地域に分断が持ち込まれました。そんな中、住民たちはこの問題をどう見てきたのか——「町民の会」の活動を紹介しながら、皆さんとともに考えます。

調査も終わり、関連する資金は縮小します。その時のために、これらに依存しない地域振興プランづくりを考えます。

1月27日(金) 第4回

原発景気に沸いた幌延の砂丘は今…

●長岡 伸一(ながおか しんいち)

元NHK札幌放送局 番組制作ディレクター

核ゴミ関連施設問題で揺れ続ける幌延町。1990年前後、海岸沿いの砂丘には、泊原発向けの砂を採取する業者が全道から集まりました。乱掘され、跡地を首都圏の廃棄物で埋め立てる計画も…。長く尾を引く「幌延問題」を原点から見直します。

11月25日(金) 第2回

脱原発・核ゴミ調査反対運動と廃炉後の地域づくり

●佐藤 英行(さとう ひでゆき)

岩内町議・「泊原発立地4町村住民連絡協議会」代表

泊原発1・2号機も耐用年数40年が近づいてきました。また、寿都町と神恵内村ではNUMOによる文献調査が終わろうとしています。これまでの反対運動を振り返り、「原子力マネー」に依存しない、住民の手による地域づくりとはどのようなものか報告します。

2月24日(金) 第5回

最終処分問題を政府はどう捉えているのか

●高野 聡(たかの さとし)

認定NPO法人「原子力資料情報室」スタッフ・「総合資源エネルギー調査会放射性廃棄物ワーキンググループ」委員

「地層処分を推進する」という国の原子力政策は今、どうなっているのか——。処分問題をめぐる審議会のワーキンググループに参画する中で、見えてきたことなどを報告します。併せて、数年間にわたり滞在した韓国での核ゴミ反対運動についても紹介します。

12月23日(金) 第3回

「原子力マネー」に依存しない地域振興プランづくり

●小田 清(こだ きよし)

北海学園大学名誉教授・「岩宇・寿都地域振興プラン作成委員会」座長

岩宇4町村や寿都町には多額の「原子力マネー」が投下されてきました。しかし、それらは地域の持続的な発展に役立ったのでしょうか。やがて廃炉の時代が訪れ、核ゴミ

3月24日(金) 第6回

核ゴミ処分問題と私たちの生き方

これまで講師を務めた数人の方からの問題提起を受け、3期にわたる講座を振り返る、まとめの講座です。最終処分に向けた北海道内の動きなどを検証し、受講者の皆さんと意見交換を行ない、明日への希望の道を探っていきます。

17. ミュニシパリズム (地域自治主義)



6月の杉並区長選で「ミュニシパリズム (地域自治主義)」を掲げて立候補した新人の岸本聡子さんが4選を目指した現職に勝利した。何が市民を動かしたのか。「ミュニシパリズム (地域自治主義)」とは何なのか？それはこの閉塞して日本社会を変える力になり得るのか。共に学び語り合いましょう！

日程 11月3日(木) 開講 全5回 月1回第三金曜 18:45 ~ 20:45 *初回のみ第一木曜午後開催

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A) *オンライン受講可

参加費 通し(会場・オンライン共通) 一般5,000円 会員4,000円 25歳以下2,000円

(単発 一般1,500円/回 会員1,000円/回 25歳以下500円/回)

コーディネーター 雨宮 恭子(あまみや きょうこ) 「遊」理事、ミュニシパリズムは未来の希望

若月 美緒子(わかつき みおこ) 「遊」会員・「コミカフェ加伊」店主

横森 純一(よこもり じゅんいち) 心情的アナキスト爺さん

11月3日(木) 第1回 ※この回のみ14:00~16:00

市民の力で政治を変える —杉並区長選に学ぶ

●内田 聖子(うちだ しょうこ)

アジア太平洋資料センター(PARC) 共同代表

「水道、再び公営化！」の岸本聡子さんが杉並区長選に勝利したことは私たちに震撼させた！選挙戦では駅前の広場で座り語り合い、当選後は自転車で登庁しているとのこと。選対を務めた内田さんを迎え市民とともに闘った選挙戦や、動き始めた区政への取り組みの様子などを聞き、今の私たちに生かせるものを学び取りたい！

11月18日(金) 第2回

水道再公営化とコモン・コミュニティの再生 —世界に広がるミュニシパリズムの動き

●コーディネーター・チーム(雨宮・若月・横森)

かつて人々の暮らしは入会地などのコモン(共有の富)と地域の助け合いによって支えられていた。今それらは失われ格差社会の中で困難な生活を強いられています。水道再公営化等コモンやコミュニティの再生を掲げ世界各地で起きているミュニシパリズム(地域自治主義)の動きについて学びます。

12月16日(金) 第3回

連帯経済とは…?

—フェアトレード運動等を通して考える

●平野 研(ひらの けん)

北海学園大学・発展途上国論担当

新自由主義政策が進み貧困・格差社会が広がる中、大資本が支配する既存のシステムに抗う動きが出てきている。

連帯経済もその中の一つでは…。フェアトレード運動・SDGsの実践とも絡めながら連帯経済とは何なのかその理論や取り組みが私たちの社会の現実を変えるヒントにならないのかを考えます。

1月20日(金) 第4回

市民の目から考える札幌オリンピック

●高野 馨(たかの かおる)

市民政党 札幌冬季五輪に反対する会 代表

●高橋 大輔(たかはし だいすけ)

市民政党 札幌冬季五輪に反対する会

●市民有志

東京オリンピックで見えてきた、開催地域の意向や事情がIOCに跳ね返されるオリンピックの実像。札幌はどうなるのだろうか？初めから開催ありきではなく、オリンピックを実施することが札幌の街や市民の暮らしに何をもたらすのか、市民自身の目線でもう一度考えてみませんか。

2月17日(金) 第5回

今後の展望

—変革の流れと日本での可能性

●田中 滋(たなか しげる)

アジア太平洋資料センター(PARC) 事務局長

世界中で起きている変革の流れを知り、日本での可能性や、市民どうしの横のつながりをどう作っていったらいいのかを考えます。



18. 本当は憲法より大切な「日米地位協定」



翁長雄志前沖縄知事の「辺野古米軍新基地建設計画承認撤回」の最後の記者会見の発言で「今の日本の米国に対しての従属は、日本国憲法の上に日米地位協定（以下地位協定）があって、国会の上に日米合同委員会がある。この二つの状況の中で日本はアメリカに対して何も言えない状況がある。」まさに、アメリカに何も言えない日本のまやかしの主権国家の根本が、単なる外交上の圧力や力関係から生まれたのではなく、きちんとした文書にもとづく法的な取り決めである地位協定にあるという事だ。地位協定の問題は日本の主権の問題であり、人権の問題である。今、起きている様々な問題を地位協定や日米合意議事録を捉え直すことで日本は独立した主権・平和国家なのか、沖縄はまだ日本・米軍の占領下なのかをこの時期だからこそ考えるべきだと思う。

日程 2023年1月25日（水）開講 全3回 月1回水曜 18:45～20:45

会場 さっぽろ自由学校「遊」（愛生館ビル5F 501A） ＊オンライン受講可

参加費 通し（会場・オンライン共通） 一般 3,000円 会員 2,400円 25歳以下 1,200円
（単発 一般 1,500円/回 会員・オンライン 1,000円/回 25歳以下 500円/回）

コーディネーター 渡名喜 隆子（とうなち たかこ） 沖縄の基地を考える会・札幌

1月25日（水） 第1回

日米地位協定・日米合同委員会とは

- 前泊 博盛（まえどまり ひろもり）
琉球新報論説委員長をへて沖縄国際大学大学院教授
日米地位協定、日米合同委員会ってなんですか
いつ、どのように結ばれたのですか？



2月15日（水） 第2回

日米地位協定の問題点

- 前泊 博盛（まえどまり ひろもり）
琉球新報論説委員長をへて沖縄国際大学大学院教授
日米地位協定は具体的にどこが問題ですか？

3月15日（水） 第3回

沖縄から見える日米地位協定の現状

- 下地 輝明（しもじ てるあき）
沖縄平和ネットワーク

<「遊」のプロジェクト>

森・川・海のアイヌ先住権研究プロジェクト

このプロジェクトでは、文献調査や聞き取り調査を通して、アイヌの土地・領域・自然資源に対する諸権利を、過去 150 年間の北海道各地の自然環境の変化に即して可視化し、発信していきます。（関連講座・p8）

SDGs・北海道メジャーグループプロジェクト

国連が「持続可能な開発」を議論する際に設定しているメジャーグループを参考に、持続可能で公正な社会づくりを地域で進める上で、多様な主体の声を反映させていこうと 2020 年に立ち上げたプロジェクトです。今年度は「地域指標づくり」をテーマに取組みを進めています。（関連講座・p9）

※各プロジェクトに関心のある方は、「遊」事務局までお問合せください。syu@sapporoyu.org

19. 老いと向き合う part 8



人は高齢になるにつれて、得るものよりも失うものが増えていきます。職業、家族、友人、そして自分の健康も徐々に衰えていきます。年をとることによって生ずる様々な問題について、関係団体や施設の方々とも交流しながら、参加者どうして語り合います。ぜひ一度のそいでみてください。なお、単発受講者も必ず事前予約をお願いします。

日程 10月7日(金)開講 全5回 月1回第一金曜 14:00～16:00

※1月は参加者交流会を予定しています。詳細は開講後ご案内します。

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A) ほか

参加費 通し2,500円(単発600円/回)



10月7日(金) 第1回

篠路まちづくりテラス「和氣藍々」の見学

●須藤 結香(すどう ゆか)

篠路まちづくりテラス「和氣藍々」まとめ役

札幌市障がい者協働事業所「和氣藍々」は、うどんやケーキなどのお店であり、また、80代までのボランティアスタッフと共に「おうち食堂」を開催するなど、地域の方との繋がりを大切に、共にまちづくりを進める拠点でもあります。「和氣藍々」の須藤さんのお話から、高齢になってからの地域とのかかわりを考えたいと思います。

●集合場所 「和氣藍々」

札幌市北区篠路4条9丁目15-10 TEL 011-788-3146
(中央バス栄町教育大線「栄20・23」小鳩団地入り口下車すぐ・JR篠路駅より徒歩10分)

●集合時間 13:50

※ケーキ+ワンドリンク(730円～800円)の注文をお願いします。

11月4日(金) 第2回

映画「PLAN 75」から考える

●細谷 洋子(ほそや ようこ)

さっぽろ自由学校「遊」理事

—近未来の日本。75歳以上は自身の生死を選べる制度「プラン75」が導入された。国家事業として、安楽死が奨励される。狡猾に不気味に洗練された「現代版娯捨」—

…衝撃的な映画でした。このラストに、希望はあるのでしょうか。我が身に引きつけて、この問題を語り合い、考え合いたいと思います。

※映画「PLAN 75」は、8/26からシアター・キノで上映されます(2週間の予定)。

12月2日(金) 第3回

日本の自然葬と米国の還元葬

—自然に還る葬送運動の現在

●俵屋 年彦(たわらや としひこ)

さっぽろ自由学校「遊」理事

アメリカのワシントン州などで進む自然有機還元葬は、遺体を微生物や植物などの力で安全で豊かな土に変える葬送方法です。着実に普及しています。日本の自然葬は、火葬された遺骨を本人の希望に従って山や海に散骨する取り組みです。自然葬推進法の法制化運動が検討されています。

2月3日(金) 第4回

シニアのより良い生き方を求めて

—シーズネットの方に聞く

●奥田 龍人(おくだ たつと)

認定NPO法人 シーズネット代表

長年シニア世代のより良い生き方を提案し実践されてきたシーズネットの奥田さんをお迎えし、これまでの活動、シニア世代の抱えている問題、解決の糸口の見つけ方等についてうかがいます。

3月3日(金) 第5回

サービス付き高齢者向け住宅に5年間勤務して

●巻瀧 悠(まきぶち ゆう)

サービス付き高齢者向け住宅職員

現在、サービス付き高齢者向け住宅に勤務しております。2022年12月で丸5年間になります。以前、本講座で施設の話をしたのですが、5年間の経験を踏まえもう一度施設の話をしたと思います。

20. 北海道の問題から 地球と共生の未来を考える part 2



北海道では、今また開拓時のようなスピードで、様々な環境破壊行為が行われています。個々の原因は違って、同様の状況は地球上の各地で生じています。黙って見ていて良いはずはありません。これからの私たちの未来は、地球を基準に考え行動すること、地球にとって良いと考えられる方を選択し続けることで、変えていけるのではないのでしょうか？ そのためにも、私たちが住む北海道の現状を知り、地球と共生する方法を一緒に考えてみませんか？ 今までと違う発想、価値観を学び、身につけることで問題が解決できるようになるのではないかと、思います。北海道に住む私たちから始めましょう！（この講座の後半は、参加者が数人のグループに分かれ、話し合いをする時間が設けられています。）

日程 10月22日（土）全5回 月1回土曜 14:00～16:00

会場 さっぽろ自由学校「遊」（愛生館ビル5F 501A）＊第2、3、4回
愛生館サロン（愛生館ビル6F・南側奥）

参加費 通し 一般5,000円 会員4,000円 25歳以下2,000円
（単発 一般1,500円/回 会員1,000円/回 25歳以下500円/回）

コーディネーター 田村 リエ子（たむら りえこ） さっぽろ自由学校「遊」会員



10月22日（土）第1回

「IR誘致」から考える「まちづくり」

●菊池 綾子（きくち あやこ）

約30年前よりまちづくり活動に携わり、2019年に「IRについて考える会」と「住民投票を目指す会」の共同代表を務めた。

カジノを含む統合型リゾート計画「IR」の誘致に苫小牧市は積極的です。運営の主体は北海道が担うことになりまますので、「道民」として、将来像について考え話し合ってみませんか？賛成、反対、分らない、誰でも参加できます。

北海道は雄大な自然環境に恵まれ、数多くの貴重な動植物や絶滅危惧種と人間が共存する豊かな大地です。その豊かな自然は、私たちが生きていく上で、健康や活力を与えてくれるかけがえのないものです。あらためて北海道の自然を見直しませんか。

1月14日（土）第4回

地方の未来はどこに向かうべきか

●宮島 豊（みやじま ゆたか）

一級建築士、(株)フーム空間計画工房設立（1990年）、「子供と作ろう種から育てる未来の森」主宰、「北海道パレスチナ医療奉仕団」副代表、「shut泊」企画など担当

現実の地方創生は言葉だけで、中央や大企業への利権集中、利益誘導はより鮮明になっているが、私達の選択の結果でもある。その中で人口減少を受け入れ、自然と地方の新しい価値観を提示し、皆さんと考えて行きたい。

11月12日（土）第2回

札幌オリンピックを止めよう

—オリンピックは世界のどこにもいない

●江沢 正雄（えざわ まさお）

染織家、元オリンピックいらない人達代表、長野市在住、北海道生まれ

オリンピックは平和の祭典なんて大ウソです。長野五輪の遺産は、自然破壊と借金。オリンピックで国民の意識統合？多様性の演出にアイヌ民族の権利回復もせず、利用するのはオカシイ。たった2週間程のお祭り騒ぎに、北海道の未来を売り渡すな！

2月18日（土）第5回 於：6F愛生館サロン

エネルギーを考える

—原子力、再エネ、化石燃料

●佐々木 邦夫 北海道風力発電問題ネットワーク代表

●田中 滋 アジア太平洋資料センター（PARC）事務局長

●小泉 雅弘 さっぽろ自由学校「遊」事務局長 ほか

原子力、再エネ、化石燃料は、地球環境を破壊し、様々な災害原因となっています。どれを選んでも安心安全ではないでしょう。電気に頼りすぎる生活を見直す時ではないのでしょうか。それぞれの課題に取り組む方々が大きく繋がるきっかけになればと思います。

12月17日（土）第3回 於：6F愛生館サロン

北海道の自然を様々な角度から考える

●佐々木 邦夫（ささき くにお）

日本自然保護協会自然観察指導員、北海道風力発電問題ネットワーク代表

21. アイヌアートデザイン教室



アイヌ民族が先住民族と認められてからまだ日が浅いですが、アイヌ文化・芸術の歴史はとても深いものです。生徒さん自身の手で作る事によって、それらの文化を身近に感じる事ができると思います。是非一度チャレンジしてみませんか。お待ちしております。



日程 10月12日(水)より
月2回 第二・第四水曜 13:00～15:00



会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A)

受講料 4,000円/月(材料費は含みません) *一年間以上の継続が前提となります。

※受講をご希望の方は、クラスの見学(1回)可能です。まずはお問い合わせください。

講師 貝澤 珠美(かいざわ たまみ)

アイヌアートデザイナー。1974年8月10日平取町二風谷に生まれる。高校卒業後デザイン学校に通い、'97年に独立。ファッション、インテリア、アクセサリ等、アイヌ文様をモチーフにしたオリジナル作品を製作している。

22. 読書室よりみちまわりみち



“読書が好き”“興味深い本を紹介してほしい”そんな仲間が集まる、気さくで楽しい場です。ジャンルは問いません。これまで、話題の本、ノンフィクション、旅行記、エッセイ、時代小説から現代小説まで、そして絵本、詩集、写真集、歴史、社会、経済など様々な分野の本が紹介されてきました。普段なかなか手にとることのない本を紹介され、自分の興味対象が広まったりすることも多かったです。自分がおもしろかったと思う本(電子書籍もokです)を紹介し合うことが基本ですが、そこからいろいろに話が広がったり、知らなかったことに気づかされたりすることも多く、それも楽しいです。話を聞くだけでも、おしゃべりするだけでもok、朗読もokです。是非一度、覗いてみてください！本を通して一緒に楽しいひとときを過ごしませんか？新しい仲間をお待ちしてま～す！

日程 10月15日(土)より 全6回 月1回第三土曜 14:00～16:00
10/15、11/19、12/17、1/21、2/18、3/18

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A)

参加費 1回500円 通し2,500円



23. カール・マルクス著『資本論』を読む



『資本論』第一巻「資本の生産過程」をじっくり読み進めていきます。とくにはじめの部分は難しいので、根気強さが求められますが、一緒に励まし合いながら読んでいきます。

日程 12月7日(水)開講 全5回 月1回水曜 18:45～20:45
12/7、1/11、2/1、3/1、4/5

＊5月以降も継続予定です。読了のためには、おそらく最低4年前後を要すると思います。

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A) ＊オンライン参加可

参加費 通し 一般4,000円 会員3,200円 25歳以下1,600円
(単発 一般1,000円/回 会員800円/回 25歳以下400円/回)

チューター 宮田和保(みやたかずやす)

熊本県生まれ。北海道大学卒業。現在、北海道教育大学名誉教授。専門は、理論経済学(マルクス経済学)と言語理論です。せつつかれるのが極めて苦手で、マイペースでしか生きていけない性格です。

テキスト カール・マルクス著『資本論』

『資本論』第一巻(大月書店)を共通テキストにして統一します。他に訳本がありますが、訳本がバラバラだとページが異なるので、煩雑さをふせぐことにします。

参考文献 大谷禎之介『図解 社会経済学』(桜井書店)



24. 花さんの読書ゼミ

新著『生きる場の思想と詩の日々』を読む



この春に刊行されたばかりの新著は18章、600ページを超える大部ですが、詩人であり、哲学者である花崎皋平さんの生きたすべてが詰め込まれています。東京に生まれ、来道し、今年で91歳になるまでの間、折々に問題整理した文章や読書ノートなどが年代順に並んでいます。1世紀をさかのぼって現代史をたどる内容です。講座では参加者が2～3章ずつの内容を報告するとともに、著者の花崎さんに執筆当時、感じたこと・考えたことを改めてうかがいます。参加される皆さんで、「今」の来し方を探りたいと思います。

日程 10/13、11/10、12/8 月1回第二木曜 14:00～16:00

※前期からの継続となりますが、10月からの参加も可能です。

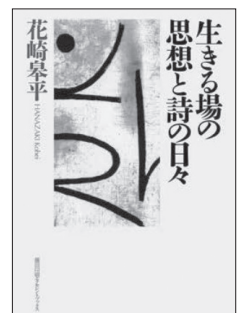
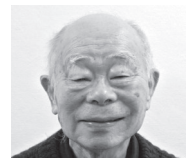
会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A)

参加費 一般3,600円 会員3,000円 25歳以下1,500円 (3回分)

チューター 花崎皋平(はなざきこうへい)

1931年東京生まれ。1964-1971年北海道大学文学部教員(西洋哲学)、以後、著述業。「生きる場の哲学」「静かな大地—松浦武四郎とアイヌ民族」「天と地と人と—民衆思想の実践と思索の往還から」など。詩集に「風の通る道」など。最新刊に「詩集アイヌモシリの風に吹かれて」(クルーズ)

テキスト 花崎皋平著『生きる場の思想と詩の日々』(2022、藤田印刷エクセレントブックス、3,300+税) ※テキストは、「遊」にて購入できます。



25. 動物福祉の名著

『アニマル・マシーン』を読む



1964年、英国で出版された本書は、のちの世界的なアニマルウェルフェア（動物福祉・AW）推進の原動力になった名著です。全10章のうち鶏関連に3章を割き、牛や豚などの悲惨な飼育実態も紹介。食の安全や法的規制などに言及しています。『沈黙の春』の著者レーチェル・カーソンは、「本書に触発されて消費者が立ち上がることによって、この巨大な新式の畜産業が軌道修正に追い込まれるように、と願う」との序文を寄せました。邦訳を読みながら、その後のAWをめぐる状況なども考察します。参加される皆さんと一緒に、工場畜産のあり方を変えていく道筋を探りたいものです。

日時 10月29日（土）開講 全6回 月1回第四土曜 13:30～15:30

10/29、11/26、12/24、1/28、2/25、3/25

会場 さっぽろ自由学校「遊」（愛生館ビル5F 501A）＊オンライン参加可

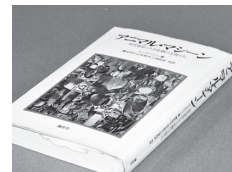
参加費 一般5,000円 会員4,000円 25歳以下2,500円

テキスト ルース・ハリソン著『アニマル・マシーン』（講談社・1978年）

＊邦訳は絶版のため、各章のPDFデータを事前配信します。各回、2章ずつ読み進める予定です。

コーディネーター 滝川 康治（たきかわ こうじ）

1954年、下川町生まれ。名寄農高酪農科卒業。和光大学人文学部中退。ローカル紙記者や酪農業などを経て、91年からフリーのルポライター。（一社）アニマルウェルフェア畜産協会設立人。著書『狂牛病を追う』（七つ森書館）、『核に揺れる北の大地』（同）など。



26. IT勉強会

— 「分からない」を「分かる」へ



仕事や普段の生活で利用しているパソコンやスマホ、インターネットですが、用語や操作方法など分からない事がたいへん多いのが現状です。そこでこの講座では特定のテーマを決めずに、毎回参加者が不明点を自由に質問して、それを経験者が回答するというものです。また即答できない場合は、ネットにて調査し、その場で検証して、質問に対応していきます。

日程 10月14日（金）開講 全4回 第二金曜 18:45～20:30

10/14、11/11、12/9、1/13

会場 さっぽろ自由学校「遊」（愛生館ビル5F 501A）

参加費 通し2,000円（単発600円/回）

コーディネーター くらだとしひこ（NPO小さなカレッジ代表）他

大学卒業後、約20年間、電機メーカーやソフトハウス等でコンピューター関係の開発業務に従事。パソコン歴40年。使用したマシンはPC8001、FM-8、PC98シリーズ、マッキントッシュ、基本ソフト（OS）はMS-DOS、DOS/V、windows、MacOS、Linuxなどを利用。



27. 「遊」版 うたごえ喫茶 2022

通わそうよ ことばと心！思い切りうたって気持ちすっきり！



2016年度後期から始まった「うたごえ喫茶」。しばらくお休みしていましたが久しぶりに復活です!!
なつかしい歌、お気に入りのうた、思い出のうた、元気が出るうた…、みなさんのリクエストでいろんな歌を歌います。みんなで歌うと、みんなの声が合わさって、なぜかとても気持ちがいい!!
参加者どうしの語り合いも大切にしていきます。どうぞ気軽にのぞいてみてください!

日程 10月21日(金)より 全6回 月1回金曜 14:00～16:00
10/21、11/18、12/16、1/20、2/17、3/17

会場 愛生館サロン(愛生館ビル6F 南側奥)

参加費 1回500円 通し2,500円 (飲み物をご持参ください)

※新型コロナウイルス感染症対策として、定員は10名、完全予約制とします。

参加を希望する方は必ず事前予約をお願いいたします。⇒予約先…TEL 090-6992-2538 (開催日当日まで受付)

※マスクの着用、手指の消毒に協力ください。



来て、見て、そして考えて！

小樽のアイヌ史跡をめぐるバスツアー



「効率的」なニシン漁のための強制移住、和人の「街作り」のための強制移住、北海道「開拓」のための強制移住、「学術研究」のための墓荒らし、そして「開拓」期の小樽の「繁栄」…

小樽のアイヌ史跡を、バスの車窓から、あるいはその場に立って、見てみませんか？そして、史実から、私たちの今、立っている地点とは何かを考えてみませんか？

日時 10月8日(土) 9:00～17:00

集合 札幌駅構内 東コンコース「団体待合所」 8:45 集合

参加費 3,000円 *バス代、ガイド代

定員 40名(大型貸切バスを利用)

企画者 木村 二三夫(きむら ふみお) 平取「アイヌ遺骨」を考える会・共同代表

案内役 平山 裕人(ひらやま ひろと)

アイヌ史研究者。小樽市生まれ。小樽市の小学校教員を長年勤める(現在は退職)。『アイヌ民族の現在、過去と未来!』(藤田印刷エクセレントブックス、2021)、『地図でみるアイヌの歴史』(明石書店、2018)、『シャクシャインの戦い』(寿郎社、2016)などアイヌ史に関する著書多数。



主な行程(予定)

札幌駅北口→【オタルナイ場所】新川(手稲山口付近)→銭函駅前(オタスツ、小樽内騒動、開拓使仮役所、銭函駅)→桜チャシ【見学】→(幕府)小樽内役所→三本木坂→小樽市立病院駐車場付近【見学】→小樽駅付近【各自昼食】→運河公園【見学】→オタルナイアイヌ強制移住地→ポン・トマリ→高島運上屋→ニシン・ロード【見学】→札幌駅北口解散

申込方法 moshikomi@sapporoyu.org 宛に「小樽史跡ツアー参加希望」のタイトルで、お名前、ご住所、電話、メールアドレスをお知らせください。(申込メ切 9月30日)

28. 実態それとも修正？

国のアイヌ政策や博物館の中でのアイヌ像の形成



1 回目の講座ではウポポイを題材に国のアイヌ政策やアイヌ民族に対する受け止め方を分析します。2 回目の講座では樺太アイヌの移住に関する歴史修正主義者の歴史観を分析し、アイヌの経験を社会全体の記憶にするために修正がもたらす結果について検討します。

日 程 2023 年 2 月 1 0 日 (金) 18:45 ~ 20:45

2 月 1 1 日 (土) 14:00 ~ 16:00

会 場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル 5F 501A) *オンライン受講可

参加費 2 回通し 一般 1,500 円 会員 1,200 円 25 歳以下 800 円

(単発 一般 1,000 円 / 回 会員 800 円 / 回 25 歳以下 500 円 / 回)

講 師 オリビア・ドイル

CEMiPoS (<https://cemipos.org/>) 研究員、アマーストー同志社特別研究員

丸山 博 (まるやま ひろし) CEMiPoS 所長



関口時正東京外語大学名誉教授 講演

アダム・ミツキューヴィチ『祖霊祭』について



講演は元駐日大使で能の研究者として世界的に知られているヤドヴィガ・ロドヴィッチ博士のプロジェクト「ポーランドとアイヌの祖霊祭」の一環として計画されました。したがって、講演を行うに当たり、ロドヴィッチ博士からプロジェクトの概要について説明いただき、プロジェクトに参加予定のアマレヤ劇団の芸術監督、カタジナ・パストゥシャク博士とメノコモシモシ (アイヌ女性会議) の多原良子代表からもご挨拶をいただく予定です。ポーランドの芸術文化はもとより、日本の伝統芸能の能やアイヌ文化に興味のある方も是非ご参集いただければ幸いです。

日 程 1 1 月 2 8 日 (月) 13:30 ~ 15:30 *参加無料

会 場 かでる 2・7 520 研修室 (札幌市中央区北 2 条西 7 丁目)

講 師 関口 時正 (せきぐちとしまさ)

東京生まれ。東京大学卒。1992?2013 年東京外大でポーランド文化を教える。日本語の著書に『ポーランドと他者』(みすず書房)。訳書にミツキューヴィチの『祖

霊祭 ヴィリニクス篇』『バラードとロマンス』(未知谷) 他多数。ワルシャワ大学出版会から継続出版中の新訂『フリデリク・ショパン書簡集』の日本語訳プロジェクト責任者。同書は邦題『ショパン全書簡』シリーズ (岩波書店) として既に 3 冊が刊行されています。

「2022 年は《ポーランド・ロマン主義 200 年》を記念する年と制定する——そうポーランドの国会で決議されました。ひとくちにロマン主義と言っても、文化圏によって相当な違いがあります。まずはポーランドのロマン主義の特徴をお話して、中でもいちばん重要な役割をはたした詩人アダム・ミツキューヴィチについて、そして彼の作品の中でも特に詩劇《祖霊祭》の第二部について、また時間が許せば彼の《バラード》についても解説いたします」



ボランティア・インターン募集！

さっぽろ自由学校「遊」は、市民が自主的に運営している「学びの場」です。その運営は多くのボランティア・スタッフによって支えられています。単純作業のお手伝いといった軽い関わりから、講座のコーディネートなどの深い関わりまで、様々な関わり方が可能です。活動に興味のある方は、事務局までご連絡ください。学生などのインターンも募集しています。

VR アート入門講座

— 様々な可能性と楽しさ



アートは人をつなぎ、元気にします。安易な正解を求めないアートは、多様で包摂的な社会の形成を促します。VR空間のアート展示は、リアルな美術館や博物館の代わりにデジタル化した作品をVRで紹介するスタイルとして利用されています。コロナ禍で急速に進みました。

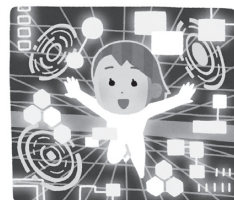
そしてVR空間の中で作品世界を生み出し、創作した空間自体を体験するVRアートが急速に注目されています。リアルな場所を必要とせず、制作素材、廃材がないというSDGs的な側面も理解されてきました。VRアートの歴史をたどり、魅力的な作品を紹介します。

日程 3月10日(金) 19:00 ~ 21:00

会場 オンライン開催 (zoom 使用)

参加費 1,000 円

企画担当 VRアートを楽しむ会



VRアートは、VR機器があれば、誰でもすぐに始められます。とても楽しく敷居の低いアートです。そして、とても可能性のある奥の深い世界でもあります。現実のアートと違い、素材も要らず廃材も出ません。国や性別や年齢、障害のあるなしを超えて、たくさんの人と一緒に創作することもできます。多くの方に、VRアートの魅力と可能性を知ってもらいたいです。さまざまな形で、VRアートを広め、展示会や体験会を開いていきたいと思っています。メールアドレス = vrartfun@gmail.com



※楽しむ会のQRコード

オンライン茶話会・遊サロンへのお誘い

Zoomを使ったオンライン茶話会・遊サロンを試行しています。ゆるい会話で、いろいろ情報交換しています。講座の様子や裏話なども聞けます。IT関係などのわからないこと、ちょっとした質問にもお答えします。時間は30-40分くらい。途中参加・退席自由です。後期講座の紹介も行っていますので、お時間があれば、参加してみてください。参加と言っても、聞くだけでもよろしいです。「遊」事務局にメールアドレスをお伝えいただければ、遊サロン開催のメールをお届けします。

(担当・俵屋年彦)

参加申込アドレス moshikomi@sapporoyu.org ※タイトルを「遊サロン参加希望」としてください。

「遊」の公式 Youtube チャンネルへのお誘い

さっぽろ自由学校・遊では、講座の内容をより広く知っていただくため、遊の公式 Youtube チャンネルでPR動画の公開を行っています。パンフレットの内容とともに、参考にしていただくと嬉しいです。講座ごとにまとめています。講座の特徴が、動画になっていますので、お時間のある時に、ぜひご覧ください。

https://www.youtube.com/channel/UCEJ7LS7SqnXob-pjltFQ_OQ/videos



※ PR動画ページのQRコード



NPO 法人さっぽろ自由学校「遊」 設立趣意

さっぽろ自由学校「遊」は、1990年に設立されました。その最初の呼びかけを引用します。「私たちの住む世界は、めまぐるしい変化を見せています。東欧諸国の自由化の波、アジア・第三世界の解放の動きから私たちのすぐ身近な食べ物、環境、文化まで、新しい〈価値〉が生み出されようとしています。そして、その主人公はどこかの偉いさんではなく、一人ひとりの〈わたし〉のほうです。自由学校「遊」は、そんな〈わたし〉が出会い、学び合い、〈わたし〉と〈世界〉との新しいつながりを創りだすことを願ってつくられました。」

今、21世紀の入り口に立って、新たに以下のことを目指します。

自立と共生 さっぽろ自由学校「遊」は、この呼びかけにあるように自由で自立した市民として、国籍や国境を超えて広くアジアや世界の草の根の市民とつながり、共生するための生き方、知識、技法を身につける場となることを目指します。

平和と人権 さっぽろ自由学校「遊」はまた、一人ひとりの市民が、かつての植民地支配と侵略戦争が他の諸国の人々にもたらした加害の歴史を認識し、その罪に対する反省を共にし、平和と民主主義、正義と人権の理念を、市民社会の日常倫理として身につける場となることを目指します。

交流と提案 さっぽろ自由学校「遊」はまた、教える者と教えられる者の関係が固定した、従来の教育制度上の「学校」ではなく、市民が、考えや知識や技能を相互に交換しあい、お互いのより良い生き方、お互いが恵みを受けている地球環境と人間社会の共生のあり方を探求し、提案し、行動のきっかけを見つける学び合いの場として発展することを目指します。

(2000年7月23日起草)

市民がつくる市民のための学びの場 さっぽろ自由学校「遊」を応援してください！

さっぽろ自由学校「遊」の活動資金は、各事業の参加費のほか、皆様からの会費や寄付金によって賄われています。皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

■「遊」の会員になってください

- a. **正会員（年会費 5,000 円）** さっぽろ自由学校「遊」の趣旨に賛同し運営に協力する会員。年1回開催される総会への参加の他、随時行われる企画・運営会議にも参加できます。会報誌「ゆうひろば」や企画案内を随時お送りします。また、各講座には会員料金で参加できます。
- b. **準会員（年会費 3,000 円）** さっぽろ自由学校「遊」の趣旨に賛同する会員。ただし、運営上の権利および責任はもちません。会報誌「ゆうひろば」や企画案内を随時お送りします。また、各講座には会員料金で参加できます。
- c. **特別会員（月 4,000 円／年間 48,000 円）** さっぽろ自由学校「遊」の活動を資金的に支えていただく会員。議決権などの法人運営上の諸権利は正会員と同じ立場です。**単発参加可能なすべての連続講座を無料で受講**することができます。

■ ご寄付をお願いいたします

- a. **一般寄付** いただいたご寄付は、「遊」の運営・事業全般に活用させていただきます。用途を特定される場合は、その旨明記のうえお振込願います。
- b. **ひと基金** スタッフの件費補助や、研修等への派遣旅費の補助など、幅広い人材を育成していくための資金援助を目的とした基金です。（1口5,000円）

<ご入金の方法> 郵便振替用紙に必要事項を明記の上、お振込願います。

郵便振替 02780-5-47036 口座名：自由学校「遊」

※他行からお振込みの場合 ゆうちょ銀行（9900）二七九店（279）当座 0047036